

与論島をどう活性化したらよいか

工学部機械工学科 2年

学籍番号 2512210204

黒木 慎志

今回、初めて与論を訪れ、レポートの課題であった与論をどうすれば活性化できるかというのを考えてみた。与論は人口 5463 人 (H25 .8.31)、観光客は 50681 人と 10 倍近い人数の人が訪れている。このように人口の 10 倍もの観光客が訪れる離島はあまりないのではないかと感じる。しかし、年別入込客数表を見ると年々少しずつ観光客が減ってきている。また、フェリー乗り場の人の多くは地元の人だったことから、入込客の半分ほどは、地元の人ではないかと感じる。与論は町づくりの一環として観光プロジェクトを行っている。プロジェクトの一環としてだと思うが、今年の夏、リアル人生ゲームの島として観光の目玉として実施されていた。資料にもあった通り、与論の一番の産業は観光であり、与論は観光客を増やすことで活性化するのが一番であると感じた。

与論に 3 泊 4 日滞在したがその間で与論の観光地の大部分を周り、自分が感じたことは、与論の観光は 1 泊 2 日で十分ではないと感じた。どこに行くのでも自転車、バイク、車があればどこでもすぐに行け、短時間で様々な場所を周ることが出来る。与論だけを目的に来る観光客ではなく、沖縄県に来た観光客や与論周辺の観光に来た観光客をターゲットにしたプランを考えてもよいと感じた。沖縄には東京など主要都市から飛行機 1 本で行けるなど、与論に比べて交通の便が良い、もっと沖縄の観光客を呼び込めれば観光客を増やすことが出来、活性化するのではないかと自分は感じた。プランとしては、那覇まで飛行機で行き、1 日目は那覇市の国際通り、首里城などの観光名所を周り、2 日目の朝に本部町に移動を行い、美ら海水族館に行き、昼まで観光を行うのが沖縄でのプランである。水族館では熱帯魚コーナーなどで与論では熱帯魚が間近で見ることが出来、熱帯魚釣りができる、野生の海ガメを間近で見ることが出来るなど、与論のでしかできないことをアピールすれば与論に行こうと思ってくれはらずである。本部町は名護港に近く、交通の便が良かったため、昼にフェリーに乗れば昼過ぎには与論につくことが出来、その日のうちに様々な体験をしてもらうことが出来る。このように小さな島が活性化するには近くの島、地域などと協力することが必要ではないと感じた。資料によると与論を訪れる人の多くは沖縄から訪れているが、与論の人に聞くと買い物は沖縄に行くことが多いということである、

したがって沖縄と与論は交通の便が悪くないということが言える。

また、観光客を増やす以外にどうしたら与論が活性化するか考えた結果、他の地域の人に島に住んでもらい、若い人が増えることで活気が出るのではないかと感じた。重点プロジェクトの中に子宝プロジェクトというものがあり、子育て環境が充実し、支援金もしっかりしている島なので、子育てをする場所にはもってこいだと感じる。しかし、子育てに力を入れているが、他の地域の人の子供と一緒に移住してきたりするときに支援がないとなると与論に住もうとは思わないのではないかと感じる。また、移住に関しても移住してきたのはいいが仕事がないとなるといけない、農水産業プロジェクトの中に若手農家や担い手農家の育成というものがあり、これに乗っかり移住して来た人と共に与論に適した農業を学び研究することで特産物開発のきっかけとなったりすると考え、他の地域の人と与論に住みたい、移住したいと考えさせるような町づくりを行っていけば良いと感じた。

終わりに、与論は一度行けばまた行きたいと思う島だと感じたので、どうしたら与論に足を運んでもらえるか、なぜまた訪れたいと思ってくれたのかを考えていけばきっと活性化していくと感じた。与論の人は温かく、また訪れたいと感じた。また与論を訪れる際はよろしく申し上げます。4日ありがとうございました。